



# 学校通信 赤坂小だより

令和6年度 第8号 R6.6.24

北九州市立赤坂小学校

校長 大成 清徳

## ようこそ園児さん 第1回本城東幼稚園交流会

◎赤坂小学校では、毎年、本城東幼稚園との間で年長児と1年生の交流会を実施しています。園児のみなさんが、「小学校に進学する際の壁を少しでも低くしたい」「小学校に行くことが楽しみになってほしい」との目的で、31年前から行われているものです。今年度も、年間3回の交流会を計画しており、先週の19日(水)に第1回目として、本校に園児さんをお迎えしての『はじめましての会』が行われました。

1年生は数日前から担当割りや司会進行、呼びかけの練習、プレゼントのメダル作成など、様々な準備をして、園児の皆さんを迎えました。みんな緊張した面持ちでしたが、園児さんを前に堂々と司会をしたり、自分の担当の言葉を言ったり、1年生になって成長した姿を見せてくれました。



レクリエーションでは、中庭で朝顔や昆虫を見せたり、運動場では赤土山を登ったり、ジャングルジムで一緒に遊んだり、園児さんを楽しませようとそれぞれに頑張っていました。かっこいいお兄さん、お姉さんになって、しっかり園児さんのお世話ができていました。お話を聞く態度や挨拶なども立派で、本城東幼稚園の園長先生をはじめ、先生方もとても感心していました。



学校の中では、いつもお世話をしてもらう立場の1年生ですが、この交流会を通して、大きく成長してくれるだろうと期待しています。次回は、秋に『ネイチャーゲーム』を実施する予定です。お楽しみに。

## ☆自分の命を守る行動を！ 【5,6年】薬物乱用防止教室



◎6月17日(月)、高学年は北九州少年サポートセンターの森山先生をお招きして、子どもたちにとって、身近な問題となっている

「薬物」と「SNS」について講話をしていただきました。「薬物」の中でも「大麻」は、その使用に当たって抵抗感

が薄く、低年齢化しているとのこと。どんな薬物でも、依存性が強く、一度使用したらやめられなくなる恐ろしいものです。すすめられても絶対に「いやだ」と断る勇気をもつことが大切だと学びました。

また、小学生のスマートフォン普及率が年々上昇しており、SNSの利用により、ゲームの高額課金、いじめ、性被害に遭うなど、様々な問題が起きています。便利なツールですが、使い方を間違うと、人を傷つけたり、自分自身も犯罪に巻き込まれたりする危険性もあることを十分に知っておくことが必要です。

子どもたちは、真剣な表情でお話を聞いていました。ご家庭でも、話題にさせていただき、注意を促していただきますようお願いいたします。

## 7・8月行事予定

### ◆7月

- 1日(月) 【全学年】消防夢コンサート ③④
- 4日(木) 5年生全員面談1日目(スクールカウンセラー)
- 5日(金) 6年:平和学習②(杉野様講話)  
5年:出前授業⑤⑥(ロシナンテス来校)
- 6日(土) 赤坂マルシェ(市民センター)
- 8日(月) 【5,6年】考えるスマホ教室⑤
- 11日(木) 5年生全員面談2日目(スクールカウンセラー)
- 12日(金) 【5年】ユニクロ出前授業③④  
※ 児童下校予定時刻 13時30分頃
- 15日(月) 海の日
- 18日(木) 大掃除、給食終了日
- 19日(金) 前期前半終了日  
午前中授業、夏休みの心構え(放送)

※ 児童下校予定時刻 11時35分頃

- 20日(土)~8月25日(日) 夏季休業日
- 22日(月)~24日(水) 個人懇談会 13:30~16:30

### ◆8月

- 26日(月) 前期後半開始日 午前中授業  
※ 児童下校予定時刻 11時40分頃
- 27日(火) 給食開始
- 29日(木) 委員会活動

## 平和について考える週間始まる

ヌチド ムタカラ  
「命こそ宝」 沖縄慰霊の日

◎本校では、毎年、人権学習の一環として全校で平和について学ぶ機会をもつようになっています。

今朝の放送で、校長から全校児童にお話しした内容を掲載します。この機会に、保護者のみなさまからも、戦争や平和についてお話していただければと思います。

沖縄といえば、青い海やサンゴ礁に囲まれ、毎年多くの観光客が訪れる暖かい島です。そんな明るいイメージの沖縄ですが、今から79年前、日本がアメリカやイギリス、中国などの国々と戦った太平洋戦争で、日本国内でただ一つの地上戦が行われた場所でもあるのです。

アメリカ軍が沖縄本島に上陸して、約3か月、「鉄の暴風」ともいわれるほど激しい戦闘が続きました。まだ学校で学んでいた2000人以上の若者も戦場に駆り出され、鉄砲の弾を運んだり、負傷した兵士の手当てをしたりさせられました。このように、沖縄の住民は戦争に巻き込まれて、12万人が尊い命を奪われました。県民の4人に1人が亡くなり、その中には、みなさんのような子どもや生まれたばかりの赤ちゃんも大勢いました。当時は「戦争に勝つこと」が何よりも優先されていたため、最も尊いはずの命が、大切にみつかわれなかったのです。

日本軍の組織的な戦いが終わった6月23日に、沖縄の平和祈念公園では、この戦争で犠牲になった方々に祈りを捧げる「沖縄全戦没者追悼式」が開かれています。式の中では、毎年、沖縄の子どもたちが、戦争に悲惨さと平和の尊さに思いを寄せた詩を朗読しています。今日は、2022年に、当時小学校2年生だった徳元穂菜（とくもとほのな）さんの詩を紹介します。この詩には、多くの人が亡くなった沖縄戦の絵を美術館で見て不安になり、思わず抱き着いたお母さんの温かさに「これがへいわなのかな」と感じた穂菜さんの、平和を守り続けたいという素直な気持ちがつづられています。

こわいをして、へいわがわかった 沖縄市立山内小学校 2年 徳元穂菜

びじゅつかんへお出かけ おじいちゃんやおばあちゃんも いっしょにみんなでお出かけ うれしいな  
こわくてかなしい絵だった たくさんの人がしんでいた 小さな赤ちゃんや、おかあさん  
風ぐるまや チョウチョの絵もあったけど とてもかなしい絵だった  
おかあさんが、十七年前のおきなわの絵だと言った ほんとうにあったことなのだ  
たくさんの人たちがしんでいて ガイコツもあった わたしとおなじ年の子どもが かなしそうに見ている

こわいよ かなしいよ かわいそうだよ せんそうのはんたいはなに？ へいわ？ へいわってなに？

きゅうにこわくなって おかあさんにくっついた あたたくてほっとした  
これがへいわなのかな  
おねえちゃんとけんかした おかあさんは、二人の話を聞いてくれた そして仲なおり  
これがへいわなのかな

せんそうがこわいから へいわをつかみたい ずっとポケットにいれてもっておく  
ぜったいおとさないように なくさないように わすれないように  
こわいをして、へいわがわかった

戦争で深く傷ついた沖縄には、今でも多くのアメリカ軍基地が残っています。沖縄戦で地獄のような光景を目にしたり、家族を亡くしたりして生き残った人たちは、未だに「心の傷」をかかえており、基地の存在がその傷をさらに痛めている、とされています。

私たちは、戦争のない平和な日本に生きています。当たり前過ぎてしまっている日々がこれからも続くように、私たちにできることは、戦争で多くの人の命が失われたこと、亡くなった一人一人に名前があり、家族があり、未来があったことを決して忘れないことです。戦争を体験した世代は年々少なくなり、お話を聞く機会はますますなくなっていきます。だからこそ、私達が戦争は人の命を簡単に奪うものであることを深く心に刻み、次の世代へとバトンをつないでいくことで、二度と戦争を起こさないという誓いを確かなものにしていかなければなりません。そのために、辛く悲しい出来事ですが、戦争について正しく知ることから始めましょう。この1週間、平和について深く学び、今、生きていることの有難さをかみしめてください。